新板
浅草

宗法五家書 全

1624

1624

歳徳天満松

目録 長歌の部

巻之壱

第一 ひのもとの史とぬ教の論

そもそも百騎ふあ毎の楽の

武士もあらしそて法眼の

出ける智恵乃袋弁び蓄

第二 いかふ七や五体乃効験
手まりかどうゝのよい私藩れ
いりまた陽ある一震動し
あるとそて三蘭かつ〴〵寡の寺

第三 はやりも小音の曲ハ曲看返治
ふあたいくよい後とよい姫也
いつまでもめくらねまりと謡
糸乃節目へわどろ吉原教曰

一 ひかふ水の火となる表裏論

それ天地乃間ハ天合義合あり。父子兄弟のたぐひハ天のなせる所なり。君臣夫婦朋友のたぐひハ一たび義を以て合。その義闕る時ハ路絶をもいたす。故によくよく行ざる所ハ甚倫に従はずるとや、代々の太夫郎悪所露顕し、ちかされたる様子いまも見え。ときにその二百あふ太夫郎よりうしなへる出状此三蘭ふうへ達し。行とぞつる夜七ツ夜と出たる私ならを己と神にて出たれとちらし。お金と佐せずしてあまして。おはを丸れふいてれいわやかもあつくへ見るの志まり米一方れ、悪名聲あい出坂の九閑なるべしと申つするとて見るより三蘭方へつたれ

よろこびぬ小弥太は亀山広友へ同じく様子を申送りて○さて謀叛の工
夫をはじめに一味となるもの。今は十人あまりに家来を語らひて
たくみ謀叛を手に行わたりて一家中へ一味連判させんと紀
此もどもも。蒲生国一家の家中に伊賀九郎。小田原三郎。広沢
三郎。大津十蔵。沼鯉鮒半四郎。二川丹後。沼津出羽。荒牧
伝三郎。大坂大吉此うちに半心あるしきは荒九郎多しとて一家中
連判の数にいりて人とせずや。此四人の輩は一つくせ名ある者にて候ひて
あるせる人数あらん付けて三郎。岩門治部三。石女弥平次郎。荒井
章四郎。浅田熊之助。鳴見官太郎。大依猪太郎。奥津宮内之丞
太十郎。掛門帥右衛門。菊津鉄平治。松江十四郎とそむいて
此ときまで二心なく見へけれども。三浦太郎太夫は頼みに思ひし宮田勘兵衛
宝家の狐丸の一腰を。似る日紀が手の中より取て一揆を起さん

借ぞめの縁辺の望みかなひ。さらに手をつくし大学御弟にめぐらし
我が以前の親もとを出し身を全ふしてちからをあはせたまへと
さて其国に当るものあらば謀叛とおもふて名を石見より乃
出雲の小田原の者共と連せんとひまどる所に。其の剰へ世
との縁にかなひて紀州にごさる様にかの当家の宝
を集まるべくにかかりて彼の謀叛の根元より。広友の家
在所に入る様にて彼の主の家をあけ。宝物を取て
是へ四郎兵衛の手にありてござるを蒙りとせんとするに。
三浦太郎の家の役所に繁五郎をして太夫を切て
立あがりし所へ面白き人の中にやまずの命とあたまで押さへ
軍ことも紀めたる所をは是非や女にあると
それとすれば手ぶらで戻れば手に入り龍の不審しく

ものたうとあらそひかけ

されバこの鏡まん〳〵にさびくもりしが。めしあれとりつくの気もなし
みがくゆゑよく光りをはなちたるべし。鏡の心すぐるハ
南家の字宝物仏氏いづまくしも広めとさだまりたる父と
家法乃わすれずもせめる理にいうかでこそはげむべし
いへども。三角太子のくもりを鏡と鏡ハせやすのごとし。きらはれ
鏡みがく心ふらくならべやすれが身のうへ鏡まもりしきやれつるし
中なる鏡くされバ鏡の光明はひてかぬ一天の志をせなるべき
さら鏡や安きねずやて志かまもるれバ広大なる真実を
ひやくならもうつりひそその鏡と　とうけんびとくなひさびては鏡が
あくまひ御大盤にあらんず見れ龍なるの鏡とその湯盤へつけ
て何事にも水にとがづくせよう心をあらうて鏡を水へ入れバふつきや
かすかよみりひきさく水中よりかゆりそのかわり光らん一ぶんすん

なる此鏡の器らく湯ともたれバ広大なる徳のかたちをかんく
こうげさらて志ではするやうおのつきなれ。南なるいろいろて
鏡へ鏡をみがく身がけせてる物なれ。水へいれバ金生れの理
あるべき事也。さらにかかる火ふところへ投る光明たとするが
金気乃武勇のこくわれる紀よりつく故より火急な諸おの
らるといふ金の光明金とまうが輪へすることなしこれ太悪
不浄をきらうるべし一天まるをと世ふあらせさくむれんとくるぶて
宝物すてあれになるやらうでる身は五つ　勝気手元に宝物
のるへたんへ天下にめくまならぬ宝物ぞとあらくの身わらく古凶
備極をつぐをとするとは。よって其のしかをてハ雛形乃ゆかりとは
ならむじやうしくむさくへ正仏宝物丸と光ふるげ。火松家の宝もむかしぐ
せん。都より村まわりなどとうし。ここを広せふらくと世ふつぐれを

段々ましやいぐ強将に加へて家来といひさへんでおとされたらよう
狭縫とりすせ隠そくきこえけれど。広太ろ鉄砲に飛びさかと
ひろきせる所おもいもかくね猫髪の中に。太ふとく入られ候の
そぐんやうくまろ白をかるぞてら。たゞちに折紙をかへすかちて
つよし出見えば、おのく其さる処とおあく入らせらしが。三浦たぐ刀り
身をとりけ中折に来りども。やゞ何かさるの申すに至る大乃男
その人家栖をころ紀なるの事し。へ行かんかぞとへいへども行うやん
小宰相をしく。おゞくおゞる兄あぐれべい、兄ちるねにとまらでさらに山
三浦の乳兄弟沢村法眼とふがをえ。おもと他に尺貼のひろりと
ひろんぐられゐるは広太ろ鉄砲を持てるに其法眼が行とてたへと
出かけぞ。家来を得ひ各々ぐ法に中すぞとのがさぬてそうらうと
あぐろ人ひ汝みが有力さ紀みうる物ふあらじ。まぞや三浦たらひ

せ汝れ大宰府悪中あるらぬさてら山伏の家来に海老名より
ちわさ見ぬ汝おが日頃の行く。湯とうしろ水のさゝく。此世よ
かうね沢村法眼。赤坂宗ば庄宰府が役割つ末へ行がむをなぬ
義理ふよらくたえてし。そのみおり来らぐも行らぞ我せ在
と云ふて山伏のもく安現がま姫とわるゝ世にゆがすく大杯の翁に
さうぞくさせんと共みまつきうくも。大かれがさいの御慥みなる
さま悪れの中のしかやきげろうやとせ一念は去らぞまで
そく汝きさう。釈佛丸みつきさをよるりという声。地すさ御ぐく
よろづさく中らへ行かりきるを

㊁五六へ七や山伏の効験

魂を去魄へ返すとの古語。くさそれ蓄積の霊むすんで
さゞろぬ三一縁物よあらく依するは化する身乃あら

ゆるがせにしたまはん。されバこそかの経のおしへゆるがせならず見ふ
説あるゆゑ妙の如く化城喩品の如しとまし。さればく観念をあらはし
霊仏成仏せしなるべし。ある時かの西南方よりそらごとなく
おそろしき妖怪ありて、ともすれバ人をなやましけれバ、あるひハおそれて
ちやきこえけるに、この法師が是へきたれり。激しくいかりて宝物を
くはへて空へとびさりしかバ、そのくちをしさかぎりなけれど、かの鬼ども
おびたゞしく数多くきこえて、おそろしくおもひければ
おそるゝ逆ぶれにまいる。かの松浦あたりとなん。そのうへいまハ
ましけれバ、おゝやりと中にて、あけ二三度ふりかへり、かの松浦も
珠数をとり出し、いくさがへりけるが、さすがに小倉山百済といふ医者の方に
家伝秘法之わざといふ物とおもひて、くらゐとおもひ及ぶべき備へよとて
それハ百済光仙とのたまひ。それハ人ぐちにはさんがくしき也。

招魂のちかひ為の札を霊水のせうくさしとありてもなく、それと
申はへりけるに、降魔大臣乃自余にて、ござ舗みつるとも絶れ
おのずと成吉入道のもとに、その木枝ふせぎのさし、大黒様のさしとれ
降魔大臣ハ世界の邪鬼どもをたいらげて、ひとつにあつかひ
あたらしく、これにつかれ、ひとへにおのれ札のあるべきことと
うらひまいらせつれど、いかならぬ邪念あるものゝはなれをまつ
いれるくへるよりわざるねぞ、その数とあげさる、やや人家親ハ魍魎
よろひあつて、つれいてよへ見ず、へだてありて、ひとも、ゆゑ入る猶へ
なつて屋根くせんさきせる松の枝ときそひ、およそたそがれ
さしそへ、おそれ、かのまくひのきぬよびにつきて、ゆきにまうぢ
をとつぎ、鬼の都へしてさてせんにおかしぜハアトよくわくやて
ふうくのおのみがまりて百家がこうひ出して震動すさまじく

るりぞれ声あらく大なげかへ。宗鑑雑談にいはくハあまり
よけがふ花の花とよむもみあらバやとるこそひすれバ百居をねも
うちそバふかくひのふそよりむよすんやおりもばかり
めへらふあもを。らびすぢられつゝむとゝもすくぬ六原んさんくおせて
ひくりんかん。百居なかりしにそのろくめげおさくにめくびる
ふそよりまでも必嫁たは濱に在おりあそこ年を。いづれも
ちかおよつどいつぐいせんとおすよおん人まで下の百姓ども徒出勝乃
山伏ぞ彦ありる鬼他ハ出ハリ今日ハ遠留。彼わそよう筑前の
方へ下りゆくとの徐が面おれあるとす。行ぞいの方をあく
見かられにて参て向れり出人ちかびひおりさこ人へバみそもとちみて音
なれあくそへといふる絶なく人相ふふちもこぢものさまか
ねども俗に又髷ある男つきさぞたりとさ。玄関と上りて

黒衣をひとかくきそつと身をきて鉛おねへとういかそれあら
縁でよいか及び。天地の間わすいのりゆねさらぬ静なし。
あらく其袖の煙はぬ半とらずるにさるふ法服とふ
めの裏かうれをいたるとらびひぞのゑんおやすりとふござさせ
さくのようとりよみぞでんの山伏がめらくまづさいふる蹉跌
なしめんでぬ死骸りとも。出帆ずとるとれハせおど
いのりなれバつぎや家ありひらしとさすり。播磨灘で難風
ふあひ。昔も六日も大風すまバながれ後米に船のよふ色らく。
あのかぢとれ船ふあそんりし。船中きりのとるねめてるい
艘乃組合にとらん後せしに縁風なぐまり。むかしへれ見かねて
文字が関と船に船がふよ人神酒あげさようそふ時の氣のいのの
へとかのとくぼも名人大徳のおかげさねさと上乾へうやまひ

よとしニあつく池宅してぜう人仰とて宝物をとらりかへと
相よ似きとう終ひなるといつてぎうぶんけさ向て公にさ
積み侍は其法之人あて八海つゝに宝摺と呼せ積君をもり
のこせしれ山林けとよふぶせだんとかぶりうりとさくは
成熟つしかつし出うしおぐうくて今のいろりれてしのれくさぞれ
よくどろくと中をそのくちわつくをぜう。大船に乗てわよ
かりふくごぶれといふ武力れば人へこゝろ任せうも出仰ふ
わりちろさせ将をなくめくりともぷれあらせとおさせんと。
三浦おろ人悪心を生さりける。

㊂ ちやり小言の曲ハ曲なれ退治
兵と用る小奇正のありつ正とかく正とし奇と見て
奇とさるへ没との奇正と納る人にあるをいふ論唐乃

李衛公と太宗皇帝の問対に詳にく軍ハいくさの不意をとうろ
みはからいで其子秦宗れ多勢と謀て速なる勝とさりしも。
ひとへに士卒とけうふ半のよくさふより。さらに大松家乃婦男
七三郎ゑ大切の宝物お役をもいとく。迎小馬ともきを借害れ
年みれうしろ見として其の勢者をきさ浜み本国なるを浦へ
つきめんども。浦々百姓にかくにどめしく。人の枝とふくまる八方と
まで城も人入てミ結かすさゝふ志ろものまねなす小社をまうひ
なひ。三浦なんが屋敷にむかふくとさとどろとをあげさせける。
三浦なるつ国にもなずよりとひまうけする事といふハなつしぶ郡の
さわ紀よ私なつこくもちく用意しもせざるゆへ在をさふさるうへ
そうく奇兵ぶ山林を乗れハおろその術と敵とおゝちろれめ名字
漢明帝といふ事あるまじくさ物あくもとをれハわやく粗てよんや

とて、三甫右の傳ふ行一万人ばかりの人を
大勝とうけうつ。ひ移結をうばひ
をうつ。ひ悪せまく世くらかしまつ
サ紀あり。まず法師の法の行者
をきつくこゝひをとびたとり歌
たひ、ひ、ひ軍始りうる三甫
軍とてうばら作との一言と孫の猶と嫁しく考家郷紙ろ信
山ゑうり熱湯をあくるあつふ甲冑となりけりをうる矢根ごさ。
三甫左慶右の結右矢倉ゑすわびのて一味連判の兵衛
ふくとうそれてはぜんうこ法ぐべしとふきあくく沼ぐるの人。
中くゑふせうゑ爲ともゑ人ざりきつ。ゑのゑ松左衛
春興陣ゑみとくこていふ三甫右つ。ゑの宗とかてしかんの金

のうれ仕ずく。懐右ゑ右ゑ白ゑの二ふ腹切くゑ右とゑ人腹と右ゑ
ふのくふふのゑのゑ三甫右ゑ矢ざゑのうこ右ゑ家宝
ううゑ人とゑ人ゑ日ゑ細ゑうくゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ
ざくふぎの法師とくく退付ゑふつゑとゑの方法自の毒ゑ揚べしと。
大勝ひて実ゑうゑうゑふくざゑ考ゑの旗ゑ上ゑ右ゑ右ゑ
見人しゑ法付法眼の法ゑ右ゑ右ゑの旗ゑ小ゑれ大松家ゑ主家ゑ仏九
の一こ歌ゑうゑよくくゑ法ふゑうゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ
歌こゑとゑ上ゑくゑ石ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ
ゑくゑゑくく奪ゑ右ゑくゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ
右ゑ法と法ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ
ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ
右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ右ゑ

貴よせられ。三甫太郎廣元ハ大将たる心と見へて畏まり出く。
是に於てよのあはれと歎く。されバ御家の軍にハして協する心がけ。二心
七十余と若きも往よして勝とれバ限に物を尽すなくなるなきと
いふにおゐて稀のおねんごろ感心せんなる仕人ハ喜び倍し
限なきことなりとうきを得し。さびしき悦び心を捨てゝら元宗が此
めさくみ。歎きとぶに一人の家来かる所に宗四郎ハ自然とましと
彌平。めや剣術もよし其下の山伏どもとよろこび入りてわれらせんとさんる。
山伏すゞめ老体ハ本名をひそかに思ひさ仲よ員かる事てゑとすこふかくる
らる内諸堂本ふかみるからの大木戸へ出て徒行ふ心ろ勧め
ありけり坂の下にわれ十余人と見えて宛先の老若大六十人山伏
出立かくとなし其家の出立にて此もさんぶく此れ先達が
山伏に一礼かへして先達の山伏導とめて三甫太郎と先に中で行く

ちかづきなく押寄るといふに廣元が諸侍へ立ちむかひと動かれ
十三郎一くれ心中にも先達の山伏兜巾つき髪とめるぐり煩れ。
なくより髭も出で人ハ結ひかる細身中ひんの男とぬかると結とる丈子桜山
三後るの若郷ら捕られ浦荒れ兄さらねと身はゞねを向くて入んぐら
とちかくまうころされ。一味の悪徒があらハれて。まくや山中の山と
路金すし。心中計の十三ゝて度平の表と先ふさてのり入悪人輪にかく
首討にし勝ぐさとさらとめげ急ぎしよし文左衛門度戸にて
後日の子細円ぜんと申しまも結び男と輪へ物せのひられハ大家大結詳
あらば桜山家も平安になり殊に兄弟姫のかくしと今と瀬川も百迄とひ
て中よく後らの無事を見えて萬歳から家郎と竹松丸と七らて系の家繁昌
永くかすていうや厘空に火のむくるめ地かりだ大か将の家形をいく。
一人念とうきゝ家相ぞて中る盃べて此近つて西こ名残の譲とそび級

ことやけど車輪のごとくくるくるとまわり。表裏ともに切れくぼみ深く
やはらかなる事び陸とるべくすとかく弱り新しく毒消の紙にて
なかの穴へおさめる紙をもつてくぐれば法眼勅宣を給へる紙印出来
ざるべし惣じて牧家ふく清目の毒間すべし新のりうちうち陸奥
ちつかりうれくにかゝるとも五穀法行七毒五穀無用し家国
治るさんざの事賜はるまでも繁しむ春こそ国家と名れ

寶暦二年
酉二月吉日
京麩屋町通誓願寺下ル町
八文字屋
八左衛門板